



ほうらい

宝来とは

高野山伝統の「切り絵 細工」です。
玄関や神棚など、寺院や神社、家の大切な
場所に通年に渡り飾られます。



謂われ

寒冷な紀伊山地の高地にあって、稲を作ることができなかった高野山では、古くより奉書紙の切り絵を飾り、注連縄の代わりとしてきました。諸説ありますが、それが「宝来」の始まりとされています。干支、寿、宝珠、宝船などの縁起物を型取り、その年の吉祥平安を祈願します。

特徴

つり（ブリッジ）が「雲型」になっています。
また「松竹梅」が組み合わされていることが
多く、吉祥文様が意匠のポイントです。



高野紙とは

「高野紙」は弘法大師 空海が、唐よりその製法を学び、高野山麓細川の村人に伝えたことに始まるとされています。その後、長きに渡り、「高野紙十郷」と呼ばれる10の郷において紙を作り、生活の糧としてきました。しかし、時代の移り変わりと共に、人々の生活環境、ニーズも変化し、高野細川には紙漉きをする人がいなくなりました。一旦途絶えた「細川の紙作り」ですが、近年、住民達の意向により再興し、更に「高野紙」を未来へ繋げようとする試みが始まっています。

今回で体験頂く『宝来づくり』でも高野細川の原材料【楮】で漉いた紙を使って頂きます。やや厚手で粘りの強い素朴な味わいの「高野紙」。ぜひ、その手触りと奥深い文化と歴史を感じ、クラフトワークをお楽しみ下さい。お作り頂いた「宝来」は縁起物としてご家庭に飾っていただけると幸いです。

「宝来」「高野紙」の詳細は右記 QR コードよりご覧ください。

